

令和7年度 大津市立和邇小学校学校評価書

【評価】 ③:よくできた ②:できた ①:あまりできなかった ①:まったくできなかった

項目			自己評価			学校関係者評価			今後の学校改善に向けて
			小項目評定	中項目評定	現況	中項目評定	意見・提言等		
主体的・対話的で深い学び	1	支持的風土を育てる学級・学年集団づくりを進めた。	3	2	<p>○愛情を持って子どもに接する教員が多いと感じる。「子ども」を主語に考え、授業や学級、学年経営考えられている。また、互いのよいところ目を向けられるように、『いいところ貯金』に取り組んだ。</p> <p>○子どもの思考や実態に応じた指導の工夫、改善を行った。お互いの良さを見つけあう活動や、友だちと共に成長する課題を与え、共に学ぶことの意義を感じさせるよう努めた。</p> <p>○▲主体的・対話的で深い学びを追求する授業研究を行った。また、コミュニケーションを図る授業作りを努めたが、まだ授業に関する話をしてしまうなどの課題はある。</p> <p>○校内研を中心に、学びたいと思う工夫や教師間の話し合いも活発である。</p> <p>○夏季研修に積極的に参加し、授業にかすことができた。</p> <p>○チーム担任により、学年での交流が増えた。</p> <p>▲校内研究会が学年部が変わったことで、研究する数が減ってしまった。</p>	3	<p>○コミュニケーションの取り方について工夫してほしい。</p> <p>○主体的な学びと体験的な活動を丁寧に行われていると感じる。</p> <p>○全体的に落ち着いた学級経営がなされていると感じる。自己研鑽に努め、幅広い視野で子どもたちの指導をお願いしたい。</p> <p>○これからの時代、特に子どもたち一人一人が自分で考え、発言する方が必要だと思う。子どもたちが自ら考え判断する機会を大事にしていきたい。</p> <p>○『いいところ貯金』等、取り組みやすいネーミングがされているのが良い。主体性を身につけるには、自分の言葉で話せることと同時に聴く姿勢がもてるのが大切。</p>	<p>★縦割り活動（年間2〜3回）や運動会の縦割り応援の実施、児童会種目新設等を計画し、集団作りの充実を図る。</p> <p>★和邇小ペースブック等、土台の部分をしっかり揃えた上で、系統性を持たせることを意識していきたい。魅力的なゴールを設定されていることが多いので、それを次の年にも残していく。</p> <p>★授業研究会は、今年度と同じ形態で行うが、授業提供しない学年も授業を公開し、全教員が見て学べる機会を設ける。</p> <p>★『対話』をキーワードに、朝の時間やぐんぐんの時間等を活用して、週1回コミュニケーショントレーニングを取り入れる。</p>	
	2	協働する体験・伝え合う喜び・コミュニケーション能力の育成を図る授業の工夫改善に努めた。	2						
	3	主体的・対話的で深い学びを追求する授業研究や研修に取り組んだ。	2						
道徳教育の充実	4	生命を尊重する心やいじめを許さない態度などの道徳的実践力を育てる指導を工夫した。	3	2	<p>○生命を尊重し、いじめ防止の風土がしっかりとできていると感じる。子ども同士でも考え、良し悪しの判断はできている。</p> <p>○日々の授業や休み時間の中でも子ども達に正しい道徳観を育てられるよう意識している。トラブルが発生した際には、複数で対応、指導するなど、指導をていねいに行った。</p> <p>○毎月の人権の日や年2回の全校道徳、先生と語る会など、いじめについての理解や未然防止につながる手立てが取り組まれている。また、委員会等においても他人を思いやる心や人権意識を高める取り組みが行われている。</p> <p>○▲道徳科の学習は、主に教科書を使って教材研究を行った。その際、子どもたちにとって効果的となる資料の開発・整備までは行うことができていない。</p> <p>○今年度は道徳参観に加え、情報モラルの講義に保護者に参加してもらえ、学校からの情報発信ができた。</p>	3	<p>★人権の日の取組では、様々な人権課題（ジェンダー等）を取り扱っていた。</p> <p>★神絵を印刷・ラミネートして残したり、板書を写真に撮ってメタモジ等のICTを活用して共有したりできるようにする。</p> <p>★考え、議論する道徳授業にするために、一人一人が書ける小さなラミネートボードを何セットか用意する。</p> <p>★発問や展開の工夫を共有できるように、OJT研修等で道徳に関する座談会を開く。</p> <p>★学校全体で使えるようふりかえり欄付きのワークシートを道徳部会で作成し、活用していく。</p> <p>★人権の日や魔法の部屋、委員会活動等、授業以外の部分で様々な取り組みを行うことができているので、それを通信等で保護者の方に伝える。</p>		
	5	ものごとを様々な視点からとらえ考えさせる道徳科の授業・評価に関する研究や資料の開発・整備・交流に取り組んだ。	2						
	6	積極的に保護者等への道徳科の授業公開を行った。	2						
体力づくり	7	たくましい心と体を育てる魅力ある授業の工夫改善に努めた。	2	2	<p>○運動会や体育の学習についても、子どもの実態や時代に合った形で実施できている。大縄跳び等、目標をもって自主的に取り組む姿が見られ、良い雰囲気だと感じている。</p> <p>○運動を純粋に楽しめるような様々な運動の場を設けたり、学習にストーリー性を持たせたりするなどの工夫をしてきた。</p> <p>○夏季研修で学んだ内容を学期始めにおすすめの運動に実際に取り組んだ。運動が苦手な子どもも笑顔で取り組む姿が見られた。</p> <p>○なわとびを進んで取り組んでいる子が多い。また休み時間に先生たちも一緒に取り組んでいる。</p> <p>○▲季節を問わず、子どもたちはしっかり体を動かすことができている。ただ、熱中症警戒の時期の学校での過ごし方、体力の発散のさせ方などよい案が欲しい。</p> <p>○朝の5分運動が定着し、子ども達も前向きに取り組む姿が多く見られる。</p>	3	<p>★運動が苦手な子どもでも自ら取り組むことができるような魅力ある授業を行う。</p> <p>★今年度と同様に、学級（学年）づくりを大切にした上で、単元に合わせた準備運動を行ったり運動量の確保に努めたりしている。</p> <p>★次年度も朝の運動を短時間で集中して行い、体を動かすことを習慣づける。</p> <p>★体育掲示板の更なる活用を促し、縄跳びやスパートライ等、学校全体で熱量を上げて取り組んでいく。</p> <p>★猛暑時にも運動できるように、遮光ネットなどを活用し、安全面にも配慮する。</p>		
	8	運動に親しむ環境づくりや体力づくりに努めた。	3						
	9	生涯にわたって健康を保持増進し、進んで体を動かそうとする意欲を育てた。	2						
指導改善	10	学力向上を目指した指導体制・指導方法の工夫改善に努めた。	2	2	<p>○校内研究によって日々の自身の指導内容や方法についてふりかえることができた。</p> <p>○専科指導や教科担任制、学年での交換授業を行い、指導の工夫や改善に取り組めた。</p> <p>○ぐんぐんの時間に100マス計算や算数の単元を取り入れることで、10分間集中して取り組むことができた。</p> <p>○自由進度学習を数回取り入れてみたが、学力の土台がしっかりできていないと感じた。</p> <p>○OJTや夏季研修など職員間で学び合うことができた。</p> <p>○教師の指導力向上の面では、校内研究の時間を多くとることで、子どもたちにとっても教師にとっても有意義な学習に繋がることができた。</p> <p>○業務の精選が進められ、子どもたちにとって何が大事かを考え、なくすだけではなくよりよい方法を考えられている。</p> <p>▲取り組みが多く、役割が多かったり偏りたりしているように思う。</p> <p>○成績を2学期制にしたことで、余裕をもって学習を進めたり、早めに退勤したりすることができた。</p>	3	<p>★習った事はおおむね理解できていても、かけ算わり算の筆算等で計算間違いが非常に多い状況がある。漢字（ことば）、計算を中心に継続的に反復練習に取り組む、基礎学力の強化を図る。</p> <p>★OJTを充実させ、年間を通して各教科の研修を行ったり、長期休業中の研修で学んできたことを職員間で共有を図ったりする。</p> <p>★視覚支援や学力を高めるツールとしてのiPadの効果的な活用についても、今後見直しとともに、インターネットモラルについて教える機会を下学年においても設けていく。</p> <p>★教職員が子どもたちと落ち着いた関わりをするように、短縮日課の日をつくる等の検討を行う。</p>		
	11	教職員の指導力及び組織的な教育力の向上に努めた。	2						
	12	働き方改革の取り組みと教育活動の質の改善に取り組んだ。	2						

項目			自己評価			学校関係者評価			今後の学校改善に向けて		
			小項目評定	中項目評定	現況	中項目評定	意見・提言等				
育ちと学びを支える連携	家庭・地域との連携	13	2	3	<ul style="list-style-type: none"> ○スマホ教室は行うことができてよかった。子育てに対する支援が十分にできたかどうかは不確かである。普段からホームページを通して学校の情報を発信することができた。 ○地域の方々と連携しながら進めていく取り組みが多々ある。 ○不審者訓練やインターネット教育の参観など、今の時代に合った学習を取り入れられている。外部機関や地域との連携も充実しており、お互いがよさを活かしながら、教育活動に取り組むことができているように感じる。 ○生徒指導や特別支援教育につながることで気になることはその都度、保護者と共有し、必要に応じて支援を行った。 ▲予算の確保と情報発信を積極的にに行い、持続できればと思うが、教師と児童の負担が増加し、通常の授業が圧迫されかねないので、精選も必要ではないかと思う。 ○12月に行われた防災キャンプでは、地域の方と一緒に防災について学ぶことができた。 	3	<ul style="list-style-type: none"> ○形だけの取組が目立つ。 ○防災キャンプ、不審者訓練やインターネット教室の参観等、ニーズに合った学習内容に取り組んでいる。ネット社会で小学生のトラブルも増えている昨今、引き続き、保護者にも呼びかけてほしい。 ○学校に対する期待・要望も多く、大変かと思えます。地域等の連携は、学校の過度の負担にならない程度で良いかと思う。 ○地域との連携（地域学習等）が深められており、素晴らしい。子どもたちが生き生きと活動している様子が伺える。更に、地域での学習が深まっていくことを期待する。 ○防災教育について学校全体で積極的に取り組んでおられることは、大変大事ななことと思う。今後も継続して取り組んでほしい。 ○地域人材の活用や防災に対する取組が効果的であったと思う。インターネット教室等の保護者参観の機会があればいい。保護者への周知をがんばってほしい。 ○保護者・地域が丸となって、防災に取り組んでいた。来年も続けてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ★保護者や地域とのつながりを大事に、地域の人や保護者の参加できる行事をこれからも続けていきたい。 ★情報モラル教室への保護者の方の参加が、年々増えてきている。次年度も、専門家に指導していただき、参観という形で案内していく。 ★保護者の方が子どもたちの様子を見ることができるよう、授業だけでなく教室や廊下の掲示物を充実させる。 ★SCやSSWだけでなく、子どもの心の支えとなり、援助する役目を担うメンタルフレンド的な方がいると良い。不登校傾向の児童だけでなく、子ども達の話し相手や遊び相手となり、心の安定や学習意欲の支援をしてもらえるボランティアを探す。 ★地域人材を活用しやすいう一方、連絡を取り合ったり時数を使ったりと、負担が増える部分もあるため、次年度は精選し、より効果的な取組を計画していく。 			
		14	3						2	<ul style="list-style-type: none"> ○校種間のつながりを大切にしている。子どもたちの可能性を最大限まで高めるためには今後も連携を密に行い、スムーズに接続していることが大切だ。 ○園児さんが学校に来てくれる機会が多いが、園に行く機会は少ない。中学校も同じである。 ○5・5交流や年長・1年生の交流、保幼小中の教員の校種間交流など、必要な機会に、また、定期的に交流に努められている。 ▲保幼小中の連携については、学年や立場によって差がある。 ○校区研においても校種間交流の機会となっている。 ○保幼小の連携について、カリキュラムの編成、研究は代表者を中心に行うことができたが、小学校の担任が幼稚園や保育園に出向くことはほとんどなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ★それが担当になってよいように、日頃から職員同士の関係づくりにも取り組んでいく。 ★合同研修は少しずつではあるが実施できている。次年度は、小学校の研究授業や授業研究会に保育園や幼稚園、中学校へ参加の案内を出していく。 ★該当学年以外は交流する機会が少ないのが現状である。どの程度連携できているかは伝わりにくいため、発信する機会を積極的に設けていく。 ★5・5交流では、暑さの影響も今年度実施に課題があった。次年度は7月ではなく6月や1月に計画する。 ★中学校への入学説明会は、ねらいを明確にし、引率は保護者の責任のもとで実施する。
		15	3								
	16	2	3	<ul style="list-style-type: none"> ○個別の指導計画の作成をすることができた児童と、必要であるが保護者との連携がうまくできずに作成できていない児童がいる。 ○保護者の思いに寄り添い、一緒に子どもを育て、支えていくことの理解を得て、個別の指導計画の作成に取り組むことができた。 ○個別の支援計画を、担任一人ではなく、特別支援コーディネーターを中心に組織でつくり、子どもの理解にもつながった。定期的に特別支援委員会を開き、子どもの現状や支援、外部機関との連携について情報共有や意見の出し合いをすることができた。 ▲個別に支援が必要な児童が複数名いるときに、十分に対応しきれないことがある。 ○個別の支援が必要な児童について、保護者の方や関係機関と情報を共有しつつ、支援を行った。 ○就学前から話しておいてくださったので、就学相談の話がしやすかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ★個別の指導計画がある児童への関わりについて、十分な対応ができるよう、計画の目標設定を整理しスモールステップで行う。 ★保護者との関わりを密にして信頼関係づくりに努め、支援が必要な児童の個別の指導計画を作成し、今後の指導に活かせるようにする。 ★巡回相談や多職種巡回など、校内や保護者へのアナウンスをしっかりと行う。 ★今後も様々な関係機関とつながりを持ち、相談しながらいろんな視点から児童の支援をしていく。 ★進級・進学の際には、時間をかけ引き継ぎを丁寧に行う。 						
	17	2				3	<ul style="list-style-type: none"> ○未然防止の生徒指導が充実している。トラブルが発生した際も、組織対応がよくできていると感じている。学年関係なく、学校全体で子どもを知り、見守る校風が素晴らしい。 ○各教師のいじめや生徒指導事案へのアンテナが高く、何かあったときには協力して素早い連携が取れていると思う。 ○アンテナを高くはり、組織で動いている。保護者対応も早期に行われていると感じる。 ▲生徒指導対応や不登校対応で手薄になってしまう時間が多々あったり、学年でカバーしあったりすることが多い。 ○子どもたちの様子が何か異変があったときや保護者の方から連絡があった時には、自分で判断をせず、管理職の先生に指導方法について相談をした。 ○専門家による人権教育指導ができている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○コディネーター任せだけでなく、個々の努力を望みます。 ○支援が必要な児童が増える中、学級全体で熱心に取り組んでいると感じる。 ○就学前の見学・体験、保護者との面談をととても丁寧に行ってもらっている。その子の今の課題から、一人ひとりの良さを引き出し、力を伸ばそうと取り組まれている。一人ひとりに合った支援を継続してほしい。 ○特別支援教育に関わる小中の連携を充実させていくべきである。 ○保護者の思いに寄り添うことが大切かと思う。保護者が気軽に学校に相談できる支援体制を構築してほしい。 ○支援が必要ではあるが、通常学級に在籍する児童もいる。特性に応じた柔軟な対応をお願いしたい。 ○個性を理解し、守ってあげてほしい。 			
	18	2							3	<ul style="list-style-type: none"> ○個別の指導計画の作成をすることができた児童と、必要であるが保護者との連携がうまくできずに作成できていない児童がいる。 ○保護者の思いに寄り添い、一緒に子どもを育て、支えていくことの理解を得て、個別の指導計画の作成に取り組むことができた。 ○個別の支援計画を、担任一人ではなく、特別支援コーディネーターを中心に組織でつくり、子どもの理解にもつながった。定期的に特別支援委員会を開き、子どもの現状や支援、外部機関との連携について情報共有や意見の出し合いをすることができた。 ▲個別に支援が必要な児童が複数名いるときに、十分に対応しきれないことがある。 ○個別の支援が必要な児童について、保護者の方や関係機関と情報を共有しつつ、支援を行った。 ○就学前から話しておいてくださったので、就学相談の話がしやすかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ★個別の指導計画がある児童への関わりについて、十分な対応ができるよう、計画の目標設定を整理しスモールステップで行う。 ★保護者との関わりを密にして信頼関係づくりに努め、支援が必要な児童の個別の指導計画を作成し、今後の指導に活かせるようにする。 ★巡回相談や多職種巡回など、校内や保護者へのアナウンスをしっかりと行う。 ★今後も様々な関係機関とつながりを持ち、相談しながらいろんな視点から児童の支援をしていく。 ★進級・進学の際には、時間をかけ引き継ぎを丁寧に行う。
19	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ○成績が良くなくても家庭環境が厳しくても、「学校へ行くこと、友だちと遊ぶことが楽しい」ことが一番大切。子どもたちの心を大切をお願いしたい。 ○就学後、子ども同士のトラブル等を聞いたり相談を受けたことがあることがあった。ちょっとからかうつもりが相手にとっては傷ついたり行為であるため、休み時間等の見守りと指導にも引き続き当たってほしい。 ○子どもたちの安心・安全な学校生活のために設備や環境、不審者対応など、こころの片隅に常に危機意識を持つことが大事である。 ○組織対応、関係機関との連携等、日頃からきめ細かな対応をされているので、家庭にももっと分かってもらえると良いですね。 ○教師は、子どもが納得する意見や答えをもって、また、危機意識を高く持って接してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ★生徒指導を充実させると同時に、日々の授業も充実したものにさせるよう努めていく。わりややすい授業のめあてと支援、成果のふり返りなどを大切にしていこう。 ★未然防止ができるよう、子どもたちの様子をしっかりと見ておく。また、日々のコミュニケーションを大事にしたり、いじめアンケートを活用したりしていく。 ★『わにっこの約束』を子どもと対話する中で検討していく必要がある。ルールを守ることの大切さについて深めていきたい。 ★指導内容を記録しておくことが子どもたちの指導に繋がっていくので、今後も記録の徹底を図る。 							
20	3				3	<ul style="list-style-type: none"> ○個別の指導計画の作成をすることができた児童と、必要であるが保護者との連携がうまくできずに作成できていない児童がいる。 ○保護者の思いに寄り添い、一緒に子どもを育て、支えていくことの理解を得て、個別の指導計画の作成に取り組むことができた。 ○個別の支援計画を、担任一人ではなく、特別支援コーディネーターを中心に組織でつくり、子どもの理解にもつながった。定期的に特別支援委員会を開き、子どもの現状や支援、外部機関との連携について情報共有や意見の出し合いをすることができた。 ▲個別に支援が必要な児童が複数名いるときに、十分に対応しきれないことがある。 ○個別の支援が必要な児童について、保護者の方や関係機関と情報を共有しつつ、支援を行った。 ○就学前から話しておいてくださったので、就学相談の話がしやすかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ★個別の指導計画がある児童への関わりについて、十分な対応ができるよう、計画の目標設定を整理しスモールステップで行う。 ★保護者との関わりを密にして信頼関係づくりに努め、支援が必要な児童の個別の指導計画を作成し、今後の指導に活かせるようにする。 ★巡回相談や多職種巡回など、校内や保護者へのアナウンスをしっかりと行う。 ★今後も様々な関係機関とつながりを持ち、相談しながらいろんな視点から児童の支援をしていく。 ★進級・進学の際には、時間をかけ引き継ぎを丁寧に行う。 				
21	3							3	<ul style="list-style-type: none"> ○成績が良くなくても家庭環境が厳しくても、「学校へ行くこと、友だちと遊ぶことが楽しい」ことが一番大切。子どもたちの心を大切をお願いしたい。 ○就学後、子ども同士のトラブル等を聞いたり相談を受けたことがあることがあった。ちょっとからかうつもりが相手にとっては傷ついたり行為であるため、休み時間等の見守りと指導にも引き続き当たってほしい。 ○子どもたちの安心・安全な学校生活のために設備や環境、不審者対応など、こころの片隅に常に危機意識を持つことが大事である。 ○組織対応、関係機関との連携等、日頃からきめ細かな対応をされているので、家庭にももっと分かってもらえると良いですね。 ○教師は、子どもが納得する意見や答えをもって、また、危機意識を高く持って接してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ★生徒指導を充実させると同時に、日々の授業も充実したものにさせるよう努めていく。わりややすい授業のめあてと支援、成果のふり返りなどを大切にしていこう。 ★未然防止ができるよう、子どもたちの様子をしっかりと見ておく。また、日々のコミュニケーションを大事にしたり、いじめアンケートを活用したりしていく。 ★『わにっこの約束』を子どもと対話する中で検討していく必要がある。ルールを守ることの大切さについて深めていきたい。 ★指導内容を記録しておくことが子どもたちの指導に繋がっていくので、今後も記録の徹底を図る。 	
22	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ○個別の指導計画の作成をすることができた児童と、必要であるが保護者との連携がうまくできずに作成できていない児童がいる。 ○保護者の思いに寄り添い、一緒に子どもを育て、支えていくことの理解を得て、個別の指導計画の作成に取り組むことができた。 ○個別の支援計画を、担任一人ではなく、特別支援コーディネーターを中心に組織でつくり、子どもの理解にもつながった。定期的に特別支援委員会を開き、子どもの現状や支援、外部機関との連携について情報共有や意見の出し合いをすることができた。 ▲個別に支援が必要な児童が複数名いるときに、十分に対応しきれないことがある。 ○個別の支援が必要な児童について、保護者の方や関係機関と情報を共有しつつ、支援を行った。 ○就学前から話しておいてくださったので、就学相談の話がしやすかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ★個別の指導計画がある児童への関わりについて、十分な対応ができるよう、計画の目標設定を整理しスモールステップで行う。 ★保護者との関わりを密にして信頼関係づくりに努め、支援が必要な児童の個別の指導計画を作成し、今後の指導に活かせるようにする。 ★巡回相談や多職種巡回など、校内や保護者へのアナウンスをしっかりと行う。 ★今後も様々な関係機関とつながりを持ち、相談しながらいろんな視点から児童の支援をしていく。 ★進級・進学の際には、時間をかけ引き継ぎを丁寧に行う。 							
23	3				3	<ul style="list-style-type: none"> ○成績が良くなくても家庭環境が厳しくても、「学校へ行くこと、友だちと遊ぶことが楽しい」ことが一番大切。子どもたちの心を大切をお願いしたい。 ○就学後、子ども同士のトラブル等を聞いたり相談を受けたことがあることがあった。ちょっとからかうつもりが相手にとっては傷ついたり行為であるため、休み時間等の見守りと指導にも引き続き当たってほしい。 ○子どもたちの安心・安全な学校生活のために設備や環境、不審者対応など、こころの片隅に常に危機意識を持つことが大事である。 ○組織対応、関係機関との連携等、日頃からきめ細かな対応をされているので、家庭にももっと分かってもらえると良いですね。 ○教師は、子どもが納得する意見や答えをもって、また、危機意識を高く持って接してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ★生徒指導を充実させると同時に、日々の授業も充実したものにさせるよう努めていく。わりややすい授業のめあてと支援、成果のふり返りなどを大切にしていこう。 ★未然防止ができるよう、子どもたちの様子をしっかりと見ておく。また、日々のコミュニケーションを大事にしたり、いじめアンケートを活用したりしていく。 ★『わにっこの約束』を子どもと対話する中で検討していく必要がある。ルールを守ることの大切さについて深めていきたい。 ★指導内容を記録しておくことが子どもたちの指導に繋がっていくので、今後も記録の徹底を図る。 				
24	3							3	<ul style="list-style-type: none"> ○成績が良くなくても家庭環境が厳しくても、「学校へ行くこと、友だちと遊ぶことが楽しい」ことが一番大切。子どもたちの心を大切をお願いしたい。 ○就学後、子ども同士のトラブル等を聞いたり相談を受けたことがあることがあった。ちょっとからかうつもりが相手にとっては傷ついたり行為であるため、休み時間等の見守りと指導にも引き続き当たってほしい。 ○子どもたちの安心・安全な学校生活のために設備や環境、不審者対応など、こころの片隅に常に危機意識を持つことが大事である。 ○組織対応、関係機関との連携等、日頃からきめ細かな対応をされているので、家庭にももっと分かってもらえると良いですね。 ○教師は、子どもが納得する意見や答えをもって、また、危機意識を高く持って接してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ★生徒指導を充実させると同時に、日々の授業も充実したものにさせるよう努めていく。わりややすい授業のめあてと支援、成果のふり返りなどを大切にしていこう。 ★未然防止ができるよう、子どもたちの様子をしっかりと見ておく。また、日々のコミュニケーションを大事にしたり、いじめアンケートを活用したりしていく。 ★『わにっこの約束』を子どもと対話する中で検討していく必要がある。ルールを守ることの大切さについて深めていきたい。 ★指導内容を記録しておくことが子どもたちの指導に繋がっていくので、今後も記録の徹底を図る。 	
25	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ○成績が良くなくても家庭環境が厳しくても、「学校へ行くこと、友だちと遊ぶことが楽しい」ことが一番大切。子どもたちの心を大切をお願いしたい。 ○就学後、子ども同士のトラブル等を聞いたり相談を受けたことがあることがあった。ちょっとからかうつもりが相手にとっては傷ついたり行為であるため、休み時間等の見守りと指導にも引き続き当たってほしい。 ○子どもたちの安心・安全な学校生活のために設備や環境、不審者対応など、こころの片隅に常に危機意識を持つことが大事である。 ○組織対応、関係機関との連携等、日頃からきめ細かな対応をされているので、家庭にももっと分かってもらえると良いですね。 ○教師は、子どもが納得する意見や答えをもって、また、危機意識を高く持って接してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ★生徒指導を充実させると同時に、日々の授業も充実したものにさせるよう努めていく。わりややすい授業のめあてと支援、成果のふり返りなどを大切にしていこう。 ★未然防止ができるよう、子どもたちの様子をしっかりと見ておく。また、日々のコミュニケーションを大事にしたり、いじめアンケートを活用したりしていく。 ★『わにっこの約束』を子どもと対話する中で検討していく必要がある。ルールを守ることの大切さについて深めていきたい。 ★指導内容を記録しておくことが子どもたちの指導に繋がっていくので、今後も記録の徹底を図る。 							